

白門技術士会第2回研修会報告（第1回定例総会后講演会）

開催日時：平成17年7月2日（土）16：00～17：15

開催場所：葺手第2ビルA・B会議室

講師：株式会社ビューポイント情報科学研究所代表 荒木純夫氏

テーマ：企業の不祥事と技術者倫理

参加者数：21名

講演内容：

白門技術士会では、技術者倫理をテーマとした研修会をシリーズで行うことを企画し、その第一弾として、荒木純夫氏を講師にお招きし、「企業の不祥事と技術者倫理」をテーマに、「不祥事の事例と分析」、「不祥事に至る理由」、「技術士に求められるもの」、「メーカー社員のリスクマネジメント講座について」について、講演いただいた。

不祥事の事例と分析については、企業の不祥事にはいくつかの共通点があり、ここ10年くらいで企業を取り巻くリスクの種類及び数が増加しているが、これに対する企業の対応ができておらず、本来プロにはありえない事故が増しているとのことであった。不祥事の要因は単純なミスが多く、ミスを隠そうとして、あるいは正しい説明をしないことで、国民の不信感を招いていること、また、準備不足が大きなトラブルを引き起こしていることなどが共通点として挙げられた。

不祥事に至る理由についてもいくつかの共通点が挙げられた。90年代以降の日本経済の低迷により、安易な人減らしが行なわれ、技術の伝承が行われず、過重労働によるミス、一人作業による事故が起こった。また、日本独特の完璧主義の弊害があり、ミスを隠蔽し、根本的な解決が図られない。肩書きに重きを置くため、経験がおろそかにされる傾向がある。資格は必要条件でしかなく、経験という十分条件が必要である。

技術士に求められるものとしては、責任範囲の明確化、組織のモチベーションの向上、顧客や同僚との（技術に裏打ちされた誠実さによる）信頼関係の構築、後進の育成があげられた。

最後にメーカー社員のリスクマネジメント講座について説明があり、基礎講習編、サイバーリスク編、グローバルリスク編などが紹介された。荒木氏には今後も様々な側面から、技術者倫理についての講演をお願いする予定である。

講演の後に鈴木中央大学副学長と畠山日本技術士会常任理事にもお話をいただいた。鈴木副学長からは、技術ではなく心が大切、資格は必要条件、鉄は熱いうちに打て、などのお話があり、荒木氏との講演内容とも相俟って、技術士及び技術者は如何にあるべきかについて考える良い機会となった。

（記 笹尾圭哉子）